

「阿波ふうど情報」 (vol. 32)

33 発行：とくしまブランド推進機構

連絡先：電話 088-624-7362 / ファクシリ 088-624-8751
住所：徳島市北佐古1番町5-12 JA会館8階
http://www.tokushima-kousha.jp/brand/



I 「生産振興対策」情報

「サミット・サミット」県内各地で生産振興につながる会議が開催されました。

○「第14回 全国らっきょうサミット 徳島大会」が開催

「全国らっきょうサミット」は、鹿児島県や高知県、福井県などのらっきょう主産地が集い、らっきょう産地の課題解決に向け持ち回りで開催しています。

徳島県でのらっきょうサミット開催は、第5回大会(H10年)、第10回大会(H20年)に続き、3回目の開催となります。

11月2日に開催された大会は、JA徳島北並びにJA徳島北らっきょう部会の主催で、約180名の関係者が参加しました。

大会では、記念講演と事例発表が行われ、各県の生産状況や産地の課題について、熱心に情報交換が行われました。

発表者からは、「らっきょうは欠かすことの出来ないアイテムである」、「消費量は減っているがそれ以上に供給量が減っている」、「自分でらっきょうを漬ける消費者は少なくなっている」、「ブランド力強化のためGI登録を取得した」、「労働力不足が深刻となっている」など…。

その中でも、各産地とも調整作業”切り子”不足を抱えていることから、三里浜特産農業協同組合 月岡代表理事組合長が行った福井県農業試験場と連携して「らっきょう切り機」を開発した発表については、特に関心が高かったです。

三里浜特産農業協同組合の「機械化事例」は、引き続き情報収集が必要と思われます。



○「第1回 全国きゅうり養液栽培サミット」

「第1回全国きゅうり養液栽培サミット」が 海部次世代園芸産地創生推進協議会主催で開催されました。

協議会では、促成きゅうりを核とした園芸振興「きゅうりタウン構想」に取組んでおり、その関連事業として実施されました。

11月14日に開催された会議には、全国から約200名の生産者や関係者が参加して意見交換会や現地視察が行われました。

きゅうりの養液栽培は、全国的にも事例が少なく、技術確立中であることから、関係者が集い意見交換が行われました。

パネルディスカッションは、県担当者がコーディネーターとコメントーターを努めて、「環境制御(培地加温、炭酸ガス施用)」、「品種」、「仕立て方式」「養液土耕」について、大学や生産者、県外メーカーなどの意見交換を行いました。

現地視察では、海陽町「次世代園芸実験ハウス」と、美波町「体験交流ハウス」で行われ、実り多い会議となりました。



< 今後も、徳島県内の意欲的な産地の動きを伝えて参ります。 >

「とくしまブランド推進機構」

愛称：地域商社 阿波ふうど

☆阿波ふうど

「AWA FOOD」とは？

「阿波(徳島)の風土に

育まれた幸をもたらす」



「とくしまブランド推進機構」は、「農家所得の向上」と「農業生産の拡大」を目的に、マーケットイン型の生産・流通・販売を総合的に推進するため、徳島県・県農業開発公社・JA徳島中央会・JA全農とくしまの4者が創設した組織です。